

「共謀罪」反対・憲法改悪阻止をめざす 宗教者・信者全国集会 アピール

宗教をめざす「平和と平等」という永遠不変の理想は、人間への絶対服従を求める時の権力者にとって、最も都合が悪いものである。そのため、古今東西を問わず、人類の歴史には、壮絶な宗教弾圧がおこなわれてきた。それは近代日本に於いても例外ではない。戦前、治安維持法の下で、大本教のように徹底的に弾圧をうけ破壊された教団もあれば、多くの教団が弾圧に屈服し、「自らの信ずる神・仏より、天皇陛下が上位にある」と自らの信仰を放棄させられ、戦争協力をしていった痛恨の歴史がある。

私たち宗教者・信者は、その大きな過去を背負って今ここに立っている。

だからこそ私たち宗教者・信者は、現代の治安維持法ともいうべき「共謀罪」（「テロ等準備罪」）を盛り込んだ組織犯罪処罰法(改正案)＝「テロ等準備罪」が成立した後に来る、将来の日本社会の宗教弾圧におののかざるを得ない。

安倍政権は、日本を戦前の天皇主権の国家に戻そうとしていることは、自民党の憲法改正草案(2012)によって明白である。2015年9月19日には「戦争法」を強行採決によって成立させ、今年5月3日には、2020年までの憲法「改正」、9条改憲を明言し、「戦争する国」にますます邁進している。

「共謀罪」を成立させる意図は、憲法「改正」の先取りで、基地や原発への反対運動、憲法「改正」への反対運動に対し、監視と刑罰のネットワークを張ることによって恐怖・萎縮させることを目的とした「治安刑法」であることは明白である。

わたしたち宗教者・信者は、

- 一、自己の信じる信仰によって、このような恐怖と萎縮の社会を拒絶する。
- 二、その先にある政府の行為による戦争と「戦争する国」を拒絶する。
- 三、この拒絶を明らかにすることによって、わたしたち宗教者・信者が再び壮絶な宗教弾圧に遭遇することを拒絶する。

今日、わたしたち宗教者・信者は、この3つの拒絶を表明し、そのために共に「共謀罪」の成立阻止に向け、すべての人々と一点共同を進め、祈りを行動に移していくことをここに宣言する。

2017年5月31日

宗教者・信者全国集会 参加者一同